**北東アジア地域研究（担当教員：柳　学洙）**

**1．ゼミの紹介と到達目標**

北東アジア地域を構成する主な国々は、韓国、北朝鮮、中国、ロシアといった諸国である。これらの国は、歴史的にも日本と深いつながりを持ち、現在も政治・経済・文化といった多様な側面で密接に関わっている。21世紀の日本の未来は、北東アジア地域との関わりなくして構想できないであろう。

北東アジア地域は日本の「外」にだけあるのではない。在日コリアン社会や華人社会など、国内にも北東アジアと交わるフィールドは数多く存在する。本ゼミでは、日本を含む北東アジア地域を多様な視点から考え、理解するための基礎知識を涵養すると同時に、受講生自身が関心を持つ北東アジア地域関連のテーマについて調査・研究するための学術的方法論を身に付け、卒業研究として一つの論文にまとめあげることを目標とする。

**2．各年度のスケジュール**

　ゼミはテキストの輪読と受講生の研究発表を並行する形で進める。各年度のスケジュールは以下の通り。

**3年前期：**近現代日本との関係史という視点から、北東アジア地域の歴史を学ぶ。朝鮮半島および台湾の植民地化、日清・日露戦争、太平洋戦争、戦後の外交関係など、近現代の日本の歴史は北東アジアとの関わりを抜きにして語れず、北東アジア諸国の歴史も日本を抜きにして語れない。トピックごとに教員が指定するテキストを読む輪読形式を取り、プレゼン担当の受講生が作成したレジュメに沿ってディスカッションを行うが、担当外の生徒もコメントを用意してくること。受講生はこの輪読期間に、自分の研究テーマを見つけてほしい。

**3年後期：**受講生各自が、前期の輪読期間に見つけたテーマに関する文献を自ら収集し、その内容について報告する。ただ文献の内容をまとめるのではなく、そこから自分の調べたいテーマをどのように発展させられるか意識した発表にする。この学期を通じて、卒業論文の基本構想を固めていく。

**4年前期：**受講生が論文計画を発表した後、その計画に沿った調査・研究を行い、進捗状況の報告を輪番で行う。教員と報告担当の受講生の間だけでなく、「ゼミ全体」でディスカッションを行うことを重視する。

**4年後期：**論文のプロット、または草案の報告を輪番で行い、教員および他の受講生からのコメントを反映しながら、完成に向けて執筆を進める。

**3．課外活動について**

　1年に1～2回、ゼミ合宿（または集中発表会）を開いて、受講生各自の研究テーマについて「議論がつきるまで」話し合う場を設ける。また、受講生が設定したテーマや希望に応じて、ゼミ単位でフィールドワークを行う場合もある。実施するかどうかを含めた詳細については、ゼミの開講後、全員の合議の上で決定する。

**4．希望票の書き方**

　学科ホームページからダウンロードした「ゼミ希望票」に必要事項を記入して提出すること。ゼミ希望理由の欄には、本ゼミを選んだ理由と、現時点で関心を持っている北東アジア関連のテーマを書いてください。

**5．連絡先・その他注意点**

　ゼミの受講に関する質問や見学希望については、lyu-1983@kitakyu-u.ac.jpにメールしてアポイントメントを取ってください。メールのみの問い合わせでも問題ありません。